

湘南慶育病院 柏木 雄太(事務部システム課 主任)

功 績 回復期リハビリ病棟紹介患者の診療情報が見える化、入院調整を正確、迅速に行えるようにし回復期リハビリ病棟の稼働を安定させた功績。

推 薦 者 中尾 恒司(事務部 次長)

推 薦 理 由 通常のリハビリシステムメンテナンスだけでなく、現場のニーズに専門性を発揮して応えることにより、各職種が連携して業務を行えるようチーム医療の土台を作り、空床を生まない風土づくりに貢献できたことは理事長賞に値すると思われ、推薦いたします。

内 容

当院の回復期リハビリ病棟(2病棟100床)は紹介元医療機関から毎日5~6件の診療情報提供書をFAXにて受信しており、前方連携担当相談員がFAX用紙をもとにDrへの受入れ判定、医事課への病名や入棟期日の確認、病棟師長への看護上の問題点の確認を行っていた。

しかしながら、医事課への確認が漏れてしまうことにより、入院してから適応病名ではないことが判明したり、用紙を持ってDrや師長へ確認しに行っても会えずに調整に時間がかかってしまったりする問題もしばしば発生していた。

Dr、看護師長、MSW、医事課で情報共有し、問題を解決できる手段はないか協議したが、業務系PCの台数には限りがあるため、全員がタイムリーに確認できる方法がなかなか見つからなかった。

協議したスキームを基に相談を受けたシステム課主任の柏木は、スキャンと電子カルテメールのみの簡便な操作で情報共有し、アラームが立つことで各担当者も遅滞なく処理ができるシステムを構築した。

全件に医事課の確認が入ることで適応外の入院はなくなり、Drや看護師も好きな時に患者情報を確認できるようになったことで入院調整のスピードが向上、待機者を多く持てるようになり、なるべく空床を作らないベッドコントロールが可能となった。

11月途中からシステムが稼働し、回復期リハビリ病棟の稼働率は11月99.9%→12月99.6%と高稼働を維持し続けている。